

## 49 西紀町のアスクレピオス像

石 原 理 年

平成元年九月三日、兵庫県夢紀郡西紀町に建立されたアスクレピオス像はわが国唯一、平成六年三月二三日「ふるさと近畿5年―6」のふるさと絵葉書にも紹介された。

西紀町は兵庫県東北部、六甲山地背後の篠山盆地西、県立自然公園夢紀連山に抱かれ、人口四千余名中、二〇%を過える高齢化と過疎の町である。

昭和四五年同町の町おこし計画に基づき、五六年第一次総合振興計画を策定「生きがいにあふれる人間尊重と連帯のまちづくり」をめざし、その実現のため第二・三次計画と取り組んで来た。六二年、北摂・丹波の祭典ホロンピア“88、の健康と福祉の祭典。老人福祉センターの設立。六三年一月自治省国際交流のまち推進プロジェクト計画実施町に指定されるなどしたのを期に、記念

モノメントづくりに着手した。

「健康は自らつくり、福祉は皆で支え合う精神を啓発すること」を基本理念に、二一世紀に向けた「健康と福祉の里」のシンボルを、医神アスクレピオスに求め、聖地エピダウロスの火を「友好と長寿の灯火」として永遠に灯し続け、彫像の建立することとし、その実現にむけ代表団がギリシャを訪れた。

聖火の国外持出しには、ギリシャ科学文化省の認可が必要であるが、時のメリナ・メルクーリ相はオリンピック等巨行事以外の持出しに難色を示したので、企画は一時挫折したが、内外関係者の努力で、六三年四月一二日許可され、五月二六日エピダウロス円型劇場で、古式により太陽光採火されたが、西紀町訪問団の見学は許されなかった。

聖火は白金カイロに点火し、団員が腹に抱いて持帰った。六月一日、西紀町友好の火しあわせリレーとし、西紀大橋で町長のスタート宣言。西紀中学生のトーチャーが町内二三kmを三時間のリレーで、老人福祉センターの点火式場に点火した。この火は像除幕式時、彫像前舟型

の灯火台に転火され「健康の灯」と命名された。

採火式の後『ギリシャ国パレアエピダウロス町と日本国西紀町は健康と福祉を重んじ、教育文化活動全般の交流と努力をはかり、相互間の友好・理解を深めることを決定します。このような交流・協力はギリシャ国と日本国の友好関係を深め、人類の発展と国際平和に貢献するものと確信します。上記の目的遂行のため、一九八八年五月二六日、パレアエピダウロス町において確定書に調印宣言します。宣言 パレアエピダウロス町と西紀町は姉妹都市を宣言します。パレアエピダウロス町長ギオロガス・ギオロガス 西紀町長森口武治』と姉妹都市議定書に署名した。

更に訪問団は、アテネ在住の著名彫刻家ムスタカス・エバンゲロスに、アスクレピオス像の彫像を依託した。

エバンゲロス氏の求めにより送られた西紀町の建立予定地周辺の風景ビデオ等により、エピダウロス出土、アテネ国立考古博物館蔵を原型とし、像長百七〇cm・台座七五×七〇×八五cm、材石にパルテノン神殿と同じアテネ・ペンテリ山デイオニソス産大理石（総量三噸）、制作

費一千万円とされた。

像は平成元年六月二五日アテネで完成、七月九日アテネピレウス港をジム・ベネチア号で搬出、八月一五日大阪港に到着、二〇日現在地に建立された。

九月三日エピダウロス代表団を迎えた除幕式は、両町長の記念挨拶と植樹、来賓祝辞、彫像者紹介、除幕、感謝状贈呈、点火、灯の命名が行はれた。除幕は森口・ギオロガス両町長、山口西紀町議会議長、ドウドウミス駐日代理大使、アルギロスギリシャ政府観光局長によった。

像建立地は、西紀町宮田二四八番地老人福祉センター横一七〇㎡、隣地に野外ステージを設けた「エピダウロス広場」三千㎡があり八月二五日共に完工した。像建立地には記念植樹と共に記念銘板もある。

（京都大学）